



# 面白がって生きる

永田 円了

## No Mud, No Lotus

面白い人、面白い映画、面白い人生等、「面白い」というコトバは、広範囲に使われる。だが「面白い」の語源を知っているだろうか。面白いは、漢字で「面（顔）が白い」と書く。その由来は、日本神話の世界にまでさかのぼる。

古事記の中で、天照大御神（アマテラス）が、弟神・スサノウの尊の横暴に怒って天の岩戸に隠れてしまう。その結果、国中は真っ暗闇になり昼夜の境目もなくなり、世が乱れてしまった。残された神々は、アマテラスを何とか外に出そうと、岩戸の前で、神楽（かぐら）や舞いをする。その騒ぎが気になったアマテラスは、ついに岩戸を開けて外に出る。

それまで闇に包まれていた世界がパッと明るくなり、岩戸の前にいた神々の顔（面）が白くはっきり見えるようになった。そして世の中は闇から光へ、世界は再び明るさを取り戻したという日本の神話である。

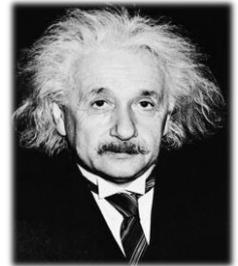
因みにタイトルの「面白がって生きる」は、希林さんの葬儀での挨拶で、愛娘の内田也哉子さんが「いつか母に言われた言葉」として紹介したもの。本文は、「～ おごらず、人と比べず、面白がって平気で生きればよい～」。

### 闇から学び、闇から抜ける

かつてアインシュタインは言った。「自分の闇と対峙するとき、その闇から絶対に逃げないこと。その闇の中に入り、闇から学んで、スッと闇から抜けること。それ以外に方法はない」(The only way to get out is through.)

婚約中の恋人を、後輩社員に奪われたアラサーOL、翔子（32）は、復讐に燃える。二人の結婚式をめちゃくちゃにしてやろうと、自ら花嫁衣装で式場へのりこむ。しかし披露宴の途中、思い直して退場する。帰りに乗った阪急電車で、初老の婦人からの言葉にはとつとつする。

「今は気が済むまで、相手を呪えばいい。でも気が済んだらもう恨むのはやめなさい。自分のためにね」(『阪急電車 片道15分の奇跡』より。 闇と対峙するときは、中途半端に闇から逃げないこと。闇にどっぷり浸かった後は、スッと闇から抜けることです。)



### 映画『あん』から学ぶこと



この映画では、ハンセン病への差別問題が大きなテーマではあるが、『あん』では、もう一つの重大なテーマが潜んでいる。それは「“働く”とは何か？」という問いである。どら焼き屋の店長、千太郎にとって“働く”とは、借金を返すためにするやりたくない仕事。またある人は、出世して人に認めてもらいたいために“働く”。

人間は、次の三つの要素が合わさって、自己を確立させることができるという。1) 自己肯定感（自分で自分を認めること）。2) 自己効力感（自分には何かを成し遂げる力があると感じること）。3) 自己有用感（自分が誰かの役に立っていると感じること）。

徳江さんにとって“働く”ということは、自分が誰かの役に立っていると感じる場であり、社会との繋がりを体験できる、ワクワクするような喜びの場であった。

最後に残した徳江さんのメッセージは、何度読んでも心にしみる。

「私たちは、この世を見るため、聞くために生まれてきた。だとすれば、何かになれなくても、私たちには生きる意味があるのよ」(樹木希林、享年75)

#### <事例>

『アマテラス』 坂東玉三郎・鼓童 2006年

映画『阪急電車 片道15分の奇跡』 2011年 エピソード①

映画『あん』 樹木希林 最後の主演作 2015年/日本、フランス、ドイツ

歌・華原朋美 『夢やぶれて』 I Dreamed A Dream 心の闇を歌い込む

円了のホームページ: [www.enryo.jp](http://www.enryo.jp)

